

### スポット参戦の菅波選手が初優勝、木村選手も勝ち星を重ねる

B-Max Racing Team（チーム総代表・SFL チーム代表 組田龍司）は、7月1～2日、鈴鹿サーキットで行われた全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権第7～9戦に参戦し、ハーフウェットの難しいコンディションとなった第7戦で、スポット参戦の菅波冬悟選手が初優勝。第8戦では木村偉織選手がポール・トゥ・ウィンで4勝目を飾りました。

マスタークラスは、今田信宏選手が欠場したことで、チャンピオンを争う DRAGON 選手は、同一条件で勝負をするため今回マスタークラスにはエントリーせず。畑享志選手が3戦とも制することになりました。

#### ■第7,8戦予選（7月1日（土）午後0時45分～1時15分）

上空は雲が多くどんよりとした天候でしたが、前日までの雨予報は外れ、気温30度を超える蒸し暑いなかでの予選となりました。木、金曜日の専有走行ではライバルチームにやや遅れをとっている状況でしたので、各車がそれぞれ対策を施して臨みました。

第7戦の予選は、ライバル勢が先行しこれを追う形となりました。木村選手は終盤まで3位につけていましたが、最後にイゴール・オオムラ・フラガ選手がこれを僅かに上回り、フラガ選手3位、木村選手5位、デビッド・ヴィダーレス選手6位、菅波選手8位、DRAGON選手11位となりました。

第8戦の予選は、ウォームアップを短めにしてアタックをかけた木村選手が、第7戦より大幅にタイムアップすることに成功し見事ポールポジションを獲得。ヴィダーレス選手と菅波選手はタイムを伸ばすことができずに7、8位。フラガ選手と DRAGON 選手はマシントラブルで出走できませんでした。



	ドライバー	Rd7 予選タイム(順位)	Rd8 予選タイム(順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	1分54秒207 (5)	1分53秒773 (1)	1 (49)
51号車	D.ヴィダーレス	1分54秒261 (6)	1分54秒605 (7)	0 (9)
52号車	I.O.フラガ	1分54秒184 (3)	出走せず	0 (21)
4号車	菅波冬悟	1分54秒563 (8)	1分54秒636 (8)	0 (0)
30号車	DRAGON	1分57秒834 (11)	出走せず	0 (0)

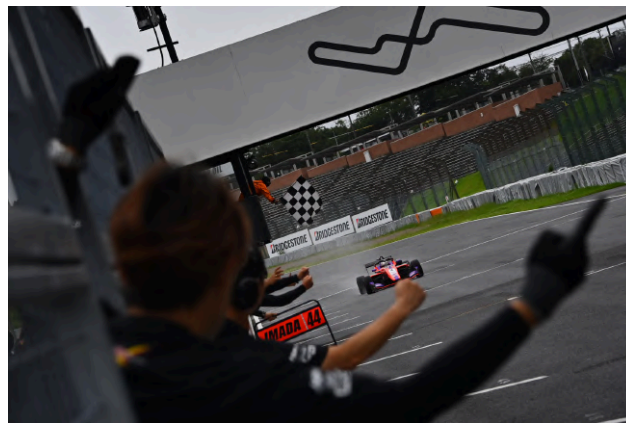
天候：曇り、コース：ドライ、気温：31度、路面温度：36度

### ■第7戦決勝 (7月1日(土) 午後4時40分～17周)

決勝スタート前になって、それまで堪えていた空から雨が落ちてきて僅かにコースを濡らしました。この微妙なコンディションのなか、上位陣はすべてスリックタイヤを選択してスタートを迎えました。ところが、1周目に木村選手とフラガ選手の接触でセーフティカーが入ると、B-Max チームは雨が降り続くと読んで、ヴィダーレス、菅波選手をピットに入れ、レインタイヤに交換。コースに送り出します。

この作戦がはまり、リスタート後の5周目にヴィダーレス選手がトップに浮上。菅波選手もこれに続きました。ところが雨脚は強くなり、ヴィダーレス選手はタイヤがオーバーヒートして9周目に後退。スリックタイヤを履くライバル勢が菅波選手に迫ることになり、逆転は時間の問題かと思われました。

しかし、ここから菅波選手は見事なタイヤマネジメントを見せ、コースの水が残る箇所ではタイヤを冷やしてペースを維持。終盤には天も味方し、再び雨が強くなり、結局6秒近い差を築いて、初優勝のチェッカーを受けました。ヴィダーレス選手は終盤持ち直して6位、コースに戻ったフラガ選手はファステストラップをマークしました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	11位	2分10秒466 (2/12)	0 (49)
51号車	D.ヴィダーレス	6位	2分12秒168 (5/12)	1 (10)
52号車	I.O.フラガ	DNF	2分09秒724 (1/12)	1 (22)
4号車	菅波冬悟	1位	2分11秒386 (3/12)	10 (10)
30号車	DRAGON	10位	2分13秒636 (12/12)	0 (0)

天候：雨、コース：ウェット、気温：28度、路面温度：31度

## ■第8戦決勝 (7月2日 (日) 午前9時15分～12周)

快晴となった日曜日、PP スタートの木村選手は、スタートを決めると、後続を牽制するようにして1コーナーに飛び込み、2周目に早くも2秒のマージンを築きました。以降は周回を重ねるたびに2位との差を確実に開き、ファステストラップも記録すると、開幕大会を彷彿させる貫禄のレース運びで独走優勝を飾りました。

1周目にポジションを上げたヴィダーレス選手は6位でポイントを獲得。菅波選手は8位、予選で出走できずに11番グリッドからのスタートとなったフラガ選手は9位でした。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	1位	1分54秒919 (1/12)	10+1 (60)
51号車	D.ヴィダーレス	6位	1分56秒422 (9/12)	1 (11)
52号車	I.O.フラガ	9位	1分55秒947 (5/12)	0 (22)
4号車	菅波冬悟	8位	1分55秒776 (4/12)	0 (10)
30号車	DRAGON	12位	1分58秒757 (12/12)	0 (0)

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：30度、路面温度：37度

## ■第9戦決勝（7月2日（日）午後1時55分～12周）

ポールシッターの菅波選手は、悪くはないスタートでしたが、2番グリッドの平良選手に先行を許し、序盤にやや差を開かれてしまいます。しかし、4周目以降は2秒の差を少しずつ削り取っていきました。結局、チャンスは訪れずに2位チェッカー。今大会2度目の表彰台に上がりました。

6番グリッドからスタートしたヴィダーレス選手は、1周目から非常にアグレッシブな走りを見せ、1周目に5位に上がると、2周目の1コーナーでアウト側から前車をオーバーテイク。抜きどころの少ない鈴鹿で4位まで順位を上げました。しかし、序盤のハイペースが影響し終盤はペースダウン。最後は競り合いの中で接触し、スローパンクチャーを起こしてしまい、最終ラップにピットに入りレースを終えました。

最後列からスタートした木村選手とフラガ選手は、積極的な走りで揃って順位を上げ、木村選手はポイント圏内の5位、フラガ選手は7位でフィニッシュしました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム（順位）	Point（累計）
50号車	木村偉織	5位	1分56秒623（3/12）	2（62）
51号車	D.ヴィダーレス	10位	1分56秒875（6/12）	0（11）
52号車	I.O.フラガ	7位	1分56秒632（4/12）	0（22）
4号車	菅波冬悟	2位	1分56秒942（7/12）	7（17）
30号車	DRAGON	12位	1分59秒265（11/12）	0（0）

天候：晴れ、コース：ドライ、気温：35度、路面温度：49度

### ■50,51 号車チーム監督 高木真一コメント

偉織選手は、第7戦の予選ではクルマのバランスやウォームアップの入れ方などで少し上手く行かずに課題が残りました。第8戦はその反省から修正を加えて、ポールポジションを取ることができました。これは100点満点でした。

第7戦の決勝はチームメイト同士での接触になってしまいましたが、避けようがなかったように思いますので、運が悪かったものと考えています。対して、第8戦はポールからきっちり勝って、ファステストも取りましたし、言うことはありません。第9戦は後方スタートでしたが、暑くなったことでタイヤの使い方でパフォーマンスの差が出て、そのなかで無理せず5位まで順位を上げることができました。悪いときも諦めずに走りきったことは評価できると思います。

デビッド選手は、随所で速さを見せてくれましたが、なかなか結果に結びつかないレースが続いています。今回、大津選手がアドバイザーとして帯同してくれましたが、SF ライツに対する理解を深めていけば、必ず結果はついてくると思います。

### ■52 号車チーム監督 松浦孝亮コメント

専有走行ではあまり良くありませんでしたが、走り込むたびに速さを取り戻していきました。予選できっちり速さを見せるところはさすがだと思います。第8戦の予選がトラブルで走れなかったこともあります。今大会は第7戦の接触で流れがすべて決まってしまったという感じです。後方スタートとなった最後のレースはよく追い上げましたし、結果としては残念でしたが得るものもありました。次戦に期待したいと思います。

### ■50 号車ドライバー 木村偉織選手コメント

第7戦の接触は、仕方がないものとして自分のなかで消化しています。もっと前から、さらにポールからスタートすれば、ああいうリスクも減らせるわけですし、そこは自分にもやれることはあったと思っています。今日の2つのレースは、その悔しさをぶつけて、結果も出せた良いレースだったと思います。

特に、最後のレースは後方スタートながら、バトルのしづらい SF ライツというカテゴリーで、しっかりポジションアップすることができました。チャンスを逃さず冷静に仕留めるというところは、他のドライバーにはない強みだと思っています。納得できたレースでした。

### ■51号車ドライバー デビッド・ヴィダーレス選手コメント

あまり良い週末ではありませんでした。なかなかクルマを納得できるレベルに仕上げることができていません。特に強くブレーキを踏むことができないという問題をずっと抱えています。チームメイトの車両のセットアップに近づけたりもしていますが、問題の解消には至っていません。

今大会も3レースでさまざまなことを試しましたが、とても敏感なSFライツの車両は、極わずかな変更で、バランスがまったく逆の方向へいくこともあります。とにかく今は次の富士戦に向けて問題を解消することが必要です。

### ■52号車ドライバー イゴール・オオムラ・フラガ選手コメント

アップダウンの激しい週末でした。専有走行はドライよりウェットの方が良く、予選日は雨予報だったのでチャンスはあると思っていました。結局ドライの予選になりましたが、クルマの変更がうまくはまって、第7戦は3位を取ることができました。第8戦はトラブルで出走できませんでしたが、この時点では第7戦と第9戦でポイントを稼げば良いとポジティブに考えていました。

後で考えると、逆に2レースは落とせないという気持ちがあって、それが焦りに繋がったように思います。第7戦は結果的に生き残りレースのようになりましたので、あそこでリスクを冒す必要はなかったわけですから。

予選はここまで割りと良い感じですので、次の富士戦でもきっちり前のポジションを確保して、堅実に走りたいと思います。

### ■4号車ドライバー 菅波冬悟選手コメント

今回は今田選手の代役という形での出場でしたが、4号車は基本的に佐々木大樹選手がコーチとしてクルマを仕上げていますので、佐々木選手に遠隔でアドバイスを貰いながらセッティングを進めました。ハンコックタイヤは走ったことはありましたが、十分に理解していませんでしたので、木、金曜日の専有走行、土曜日の予選まではすごく苦労しました。徐々に良くなってはいきましたが、順位を上げることはできませんでしたので、この時点では厳しい週末になるだろうと思っていました。

そんな状況のなか迎えた第7戦は、運が味方してくれて優勝することができました。これは素直に嬉しかったです。この優勝で第9戦もポールからスタートすることができました。

改めて、SF ライツでは良い位置からスタートすることの重要性、そして予選にフォーカスして戦わないと結果は得られないということを認識しました。今回チャンスを与えていただいた B-Max Racing Team、そして今田選手に心より感謝いたします。

### ■30号車ドライバー DRAGON 選手コメント

今大会は総合クラスでの出場ということで、レースをするというよりはクルマのセットアップの進め方に重きを置いて、なるべく気負わずにやろうと心掛けました。今まで気付かなかったクルマの特性が分かりましたし、収穫はありました。ただ、やはりライバルである今田選手がいなかったのが寂しかったですね。現状では若手の何秒落ちを目標に掲げるというレベルにまで至っていませんので、今田選手との勝負がモチベーションとなっています。次の富士では勝負ができるので楽しみにしています。

## マスタークラス

### ■第7,8戦予選

マスタークラスは参戦1台となりましたが、畑選手は今大会の3レースを確実に完走することによって、ポイントリーダーの今田信宏選手、1ポイント差で追う DRAGON 選手に肉薄することができるため、それを意識しての予選となりました。

1台とはいえ、やはり相手となるのは DRAGON 選手です。第7戦予選では、DRAGON 選手の1分57秒834に対して、畑選手は0.8秒離されてしまいました。第8戦予選では挽回しようとタイムアップしましたが、DRAGON 選手がスタータートラブルで出走できなかったため、1勝（不戦勝）1敗という五分の予選でした。

	ドライバー	Rd7 予選タイム(順位)	Rd8 予選タイム(順位)	Point (累計)
53号車	畑 享志	1分58秒721 (M1)	1分58秒024 (M1)	1+1 (20)

### ■第7戦決勝

スタート前の雨で非常に難しいコンディションとなりましたが、リスクを冒す必要はないため、畑選手はレインタイヤを選択しました。レース前半は DRAGON 選手に遅れをとっていましたが、徐々にペースアップ。8周目に DRAGON 選手をかわすと、若手とほぼ変わらないラップタイムで周回し、ミスで順位を落としてきた古谷選手とバトルを繰り広げるなど、マスタークラスとは思えない速さを見せ、総合8位でフィニッシュしました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
53号車	畑 享志	M1位 (総合8位)	2分13秒224 (M1)	10+1 (31)

### ■第8戦決勝

1周目に遅れ最後尾まで順位を落としてしまった畑選手ですが、2周目に DRAGON 選手の背後に迫ると、そこから5周に渡ってプレッシャーをかけ続けます。そして、6周目に DRAGON 選手の攻略に成功すると、終盤は1分58秒台をコンスタントにマークして、ややペースの落ちた DRAGON 選手との差を開いてチェッカーを受けました。

	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
53号車	畑 享志	M1位 (総合11位)	1分58秒156 (M1)	10+1 (42)

### ■第9戦決勝

グリッド後方に、第7戦で下位に沈んだ木村選手とフラガ選手がいましたが、1周目に2人を前に出すと、以降は第8戦同様に DRAGON 選手との一騎討ちになりました。今回は第8戦とは逆に畑選手が先行し、DRAGON 選手が追うという形です。両者のペースはほぼ同じで1分59秒台前半から半ばで周回し、その差は終盤になっても開くことはなく、1周目から12周目のチェッカーまで1秒以内の差で攻防が続きました。結局、畑選手が0.6秒差で抑えきりました。

畑選手はクラス3連勝でフルポイントを重ね、今回のレースを終えて、今田選手55ポイント、DRAGON 選手54ポイント、畑選手53ポイントとチャンピオ争いも混沌としてきました。





	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
53号車	畑 享志	M1位 (総合 11位)	1分 59秒 349 (M1)	10+1 (53)

### ■53号車ドライバー 畑 享志選手コメント

専有走行で、グリップしない路面にセッティングを合わせてしまい、予選でもタイムが伸びませんでした。これを打開するために、決勝では、チームの他の車両のセッティングを参考にして修正をしました。これが正解ですごくアクセルを踏めるようになりました。おかげで予選タイムと決勝のラップがあまり変わらないということになりましたが (笑)。

決勝は、第7戦は古谷選手が、第8,9戦は DRAGON 選手が相手をしてくれましたので、十分楽しめました。次の富士大会は欠場ですが、9月の岡山大会では、今田選手、DRAGON 選手と三つ巴の戦いができることを楽しみにしています。



# Press Release

2023.7.6

## B-Max Racing Team

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部  
252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2  
TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940  
<http://www.b-maxracing.co.jp/>



Honda FORMULA DREAM PROJECT



BYOUBGAURA-KOGYO.CO.LTD  
[www.byoubugaura-kogyo.co.jp](http://www.byoubugaura-kogyo.co.jp)

